

<第1回 学校アンケート 分析と考察>

本校は、研究教科を体育科として、「主体的・対話的で深い学び」を目指すようにしています。その中で、自他の心身の健康について考え、その実践的な態度を養えるようにしたいと考えました。また、特別の教科 道徳科や総合的な学習の時間でも、いのちの学習に重点をおき、自他の生命の大切さを考える時間を増やすようにしています。

1. 児童について

児童全体の分析として、本校においては規範意識や人権感覚が十分育成されていると言えます。(13)自分や他の人の命を大切にするという質問に対して、「(あまり)できていない。」と答えた高学年児童は0人でした。低学年では、若干名「あまりできていない」と答えていましたが、今後のいのちの学習をすすめていく上で、改善できることを期待しています。また、学校全体の合言葉である「みそあじ(身支度・掃除・挨拶・時間を守る)」の継続した指導を今後も進めて参ります。一方、アンケート項目について以下の項目は課題ととらえました。

(5)すすんで読書に取り組む (9)早寝・早起き・朝ごはんを心がける (10)自分の考えや思いを話す

(5)(10)については、本校の学校教育目標の目指す子ども像「すすんで学ぶ子ども」とあるように、主体的な学びを生み出さなければなりません。そのためには、教職員がすすんで自分の意見や考えを表現できるような授業を構成し、様々な意見を認められるような学級経営をしていく必要があると考えます。また、豊かな表現力や語彙力は読書の中から見出せることも多くあります。読書の質を高めることで、子どもたちには、言葉の引き出しを増やしてほしいと考えます。

(9)については、「みそあじ」に続く、「あはは(朝ごはん・早寝・早起き)」を子どもたちに継続して声かけをし、子ども自身で基本的生活習慣を意識してほしいと考えます。学校として、特別の教科道徳科や学級活動をはじめとする指導を繰り返し行うとともに、ご家庭とも連携していきたいと思います。

2. 教職員について

教職員の結果分析として、各項目で「できていない」と答える教職員は、ほとんどいませんでした。その中、課題ととらえたのは、以下の項目です。

(5)読書活動の取り組みを工夫する (6)自主的な家庭学習の進め方を指導する (10)自分の考えや意見を話せるよう授業を工夫する

(6)について、「(あまり)できていない」と答えた教職員に尋ねると、「自主的な家庭学習をさせるまで至っていない。」「今は、与えた課題ができるようにする段階。」と回答がありました。以前配布した「家庭学習の手引き」を再確認し、家庭学習でつけたい力を共通理解しました。

(5)について、保護者のアンケートからも、多くのメディアがある中、家庭で子どもたちに読書を働きかけることは難しいと読み取れます。教職員自身が自信をもって、読書に働きかけられるよう図書教育研修を実施し、読み聞かせやブックトークの技法を研修しました。

(10)について、教職員のアンケート結果から、「(あまり)できていない」との回答はゼロでした。ところが、子どもたちの「(あまり)できていない」の回答率は、非常に高くなっています。教職員間で具体的な取り組み実践の事例を共有したり、よりよい指導法を検討したりしていきます。

3.保護者について

今回、読書の働きかけの「よく(大体)できている」が半数を切っています。例年、自由記述より「ゲームを与えてしまいました。」「読書に適した本が家にありません。」など、読書への働きかけが難しいとのご意見をいただいている。このことからも、様々なメディアが子どもを取り巻いていると共に、読書へ働きかける学校の役割が大きく感じられます。また、掃除片付け等、家事・手伝いに関する項目の働きかけも少ないようです。ご家庭によっては、「働きかけなくても、子どもが(できている)している。」との自由記述もありました。子どもが(できた)したことを賞賛されることも素晴らしい働きかけです。是非、子どもを褒め、励ます機会を多くとり、子どもの自己肯定感や自己有用感を高めていただければ幸いです。

今後も、家庭学習や読書、基本的生活習慣を心がけることについて、学校と連携していただければと思います。また、自由記述から「働きかけても、子ども自身できないことが…」、と書かれている方もおられました。子ども自身の実現に至らなくとも、保護者と学校が連携して、働きかけることで子どものよりよい成長につながるよう、今後ともよろしくお願ひいたします。